

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
215	世界史探究②	3	3	総合学科	系列選択G

履修条件、選択上の留意事項等
2年次の系列選択Bの「世界史探究①（4単位）」を履修していること。

科目の目標
「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	世界の歴史事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価の方法	
記述内容の点検、確認、分析 行動態度の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート、プリント等提出物、授業への取り組み状況 等)	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	アジア諸地域の動揺	西アジア地域の変容	オスマン帝国の弱体化と東方問題、列強の経済的支配と帝国の近代化を目指す改革について理解している。	○		
		南アジアの植民地化 東南アジアの植民地化	ヨーロッパ諸国が植民地化をどのように推し進め、この地域がどう変容したか、考察し、表現することができている。		○	
		東アジアの激動	列強の進出や近代化の波の中で、わが国がとった行動とその及ぼし影響について、自分なりの評価を見出そうとしている。			○
5	帝国主義とアジアの 民族運動	第二次産業革命と帝国主義	第二次産業革命とその影響、列強の帝国主義と国内問題、国際社会主義運動の展開など、帝国主義時代の世界を理解している。	○		
6		世界再分割と列強の対立	アフリカや太平洋地域の植民地化の状況と、植民地獲得を進める列強間の対立を理解している。		○	
		アジア諸国の変革と民族運動	欧米列強の帝国主義政策とそれに対するアジアの諸地域の抵抗運動を関連付けて学習し、何を学ぶべきか追究している。			○
7	第一次世界大戦と世界の変容	第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦が起こった背景とその結果、ロシアで社会主義政権が成立した過程とその影響を理解している。	○		
		ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	戦後の国際秩序の形成、西欧諸国、東欧諸国、ロシア、アメリカが抱えた課題について、多角的・多面的に考察し、表現している。		○	
9		アジア・アフリカの民族運動	第一次世界大戦前後での民族運動の違いを理解し、よりよい社会の形成のために何が必要であるか追究している。			○
10	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊	世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊などをもとに、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	○		
		第二次世界大戦	第二次世界大戦について多角的・多面的に考察し、改めて第二次世界大戦を自分なりに定義している。		○	
		新しい国際秩序の形成	新しい国際秩序が、現在の民主主義社会の形成に与えた影響を考察し、より良い国際社会の在り方について主体的に探究している。			○
	冷戦と第三世界の台頭	冷戦の展開	冷戦の展開についての多様性を理解している。	○		
		11	第三世界の台頭 キューバ危機	第三世界の台頭とキューバ危機について多角的・多面的に考察し、その社会に与えた影響について自分なりに表現している。		○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
11	冷戦と第三世界の台頭	冷戦体制の動揺	19世紀後半の多極化の世界と現代進んでいる多極化を比較しながら考察し、今後の世界の方向性について主体的に追究している。			○
	冷戦の終結と今日の世界	産業構造の変容	1970年代以降の諸事件が、世界の政治や経済に及ぼした影響について理解している。	○		
12		冷戦の終結	冷戦終結が及ぼした影響について多角的・多面的に考察し、1970年代から90年代の世界について表現することができている。		○	
		今日の世界	世界各地の民族問題、地域紛争や経済問題などを考察し、今日の世界が直面する諸問題について表現することができている。		○	
1		現代文明の諸相	地球規模の課題について、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主体的に探究しようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
329	化学演習	3	3	総合学科	系列選択G

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科で2年次に「化学」を履修していること。 3年次の「化学基礎演習」と同時履修不可。

科目の目標
化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	化学や化学現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に着けている。
② 思考・判断・表現	化学や化学現象の事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 実験・観察などの基本操作を習得し、化学の事象・現象を科学的に探究する技能を身に着けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら化学や化学現象への関心を持っている。
評価の方法	
授業ノートの提出・確認、行動の観察、課題の提出(取り組み状況と提出状況)、小テスト、定期テスト、実験の報告書提出 など	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	理論化学	物質の状態と性質	物質の各状態や、そのときの粒子のふるまいについて理解している。	○		
			物質の状態が、温度・気圧の変化でどのように変化するか説明することができる。		○	
5		化学反応	化学反応の際に、熱・光・電気などのエネルギーのやり取りがあることを理解している。	○		
			電池・電気分解の反応物から、生成物を考えることができる。		○	
6			化学反応において、条件の変化がどのような影響を与えるかの判断をすることができる。		○	
			平衡状態において、条件の変化がどのような影響を与えるかの判断をすることができる。		○	
7		日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○	
9	無機化学	周期表と元素	無機物質を構成する元素について、周期表と関連させながら性質や特徴を理解している。	○		
		非金属元素・典型金属元素	非金属元素・典型金属元素の単体や化合物において、性質や反応、製法について理解している。	○		
10		遷移元素	遷移元素の主要な金属について各特徴からどの物質かを判断することができる。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
11	有機化学	有機化合物	有機化合物の特徴と性質を理解している。	○		
		脂肪族炭化水素	脂肪族炭化水素の構造や反応について理解している。	○		
			特徴的な官能基とその性質を理解している。	○		
12		芳香族化合物	構造式と名称を関連付けて理解し、判断できている。		○	
	ベンゼンの特性とその利用について理解している。			○		
	日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。				○	
1	高分子化学	高分子化合物	高分子の特徴や分類について理解している。	○		
		天然・合成高分子化合物	各高分子の構造や性質を理解している。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
		化学の築く未来	日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
214	日本史探究②	3	3	総合学科	系列選択G

履修条件、選択上の留意事項等
2年次の系列選択Bの「日本史探究①（4単位）」を履修していること。

科目の目標
我が国の歴史に関する諸事象について地理的条件や世界の歴史、資料等を活用して平和で民主的な国家の形成に必要な公民の資質能力を以下のとおり育成することを目指す。 ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史に関わる諸事象について、多角的・多面的に理解し、諸資料から情報を効率的にまとめる技術を身に着けている。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史に関わる諸事象について、意味や意義をとらえ、相互の関連、現代とのつながりに着目し、概念を使って構想し、その構想について説明し、議論する力を身に着けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を意識して、課題を主体的に追求し、解決しようとする態度が身についている。
評価の方法	
記述内容の点検、確認、分析 行動態度の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート・プリント等の提出物、授業への取り組み状況 等)	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	近世社会の成熟と幕藩体制の動揺	享保の改革と経済の発展	享保の改革の目的、効果、意義について資料をもとに多角的に考察する。		○	
		近世社会の成熟と危機のはじまり	18世紀後半の政治・社会・文化の変化について理解する。	○		
		幕藩体制の立て直し	幕藩体制の立て直しに関わる問いを設定し、解決に必要な情報を、幕府の政策、絵画・出版物などの資料から読み取る。			○
		幕藩体制の動揺	内憂外患について考察し、幕藩体制に与えた影響を表現する。		○	
		世界を見た日本人	日本人の海外経験から近世を理解する上での視野を広げる。			○
5	近代社会の幕開け	近現代の地域・日本と社会	歴史総合の学習を踏まえ19世紀の世界情勢の変化を理解する。	○		
		開国と開港	開国と開港による日本の様々な変化について理解する。	○		
		幕府の崩壊と明治維新	近世から近代への転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。		○	
	歴史資料と近現代の展望	資本主義の発展と生活	資本主義の発展と生活に関する資料を読み、明治時代の特色について仮説を立て、表現する。		○	
		国民国家と政治参加	国民国家と政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	○		
6	近代的制度の導入と新しい国際関係	世界の中の近代日本	世界の中の近代日本の特色について多面的・多角的に考察する。		○	
		制度改革と殖産興業政策	明治初期の諸政策とその意義について理解する。	○		
		文明開化と教育制度の整備	文明開化と教育制度が日本社会に与えた影響について問いを設定し、自分なりの仮説を表現する。			○
		東アジア世界のなかの明治政府	明治初期の対外政策の変化について理解する。	○		
		政府専制への批判	法令や風刺画などの資料の読み取りを通して、自由民権運動の展開について理解する。	○		
7	国民国家と資本主義の成立	立憲政治の成立	代を通観する問い、仮説を踏まえて、単元の学習内容に見通しを持つ。			○
		対外関係の変容と日清戦争	条約改正交渉と日清戦争の推移について、多面的・多角的に考察する。		○	
		産業革命と資本主義の定着	明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。	○		
		教育制度の整備と新しい文化	育の普及が文化発展にどのように寄与したのか仮説を立て、検証する。			○
		日露戦争と帝国日本	日露戦争が国内外に与えた影響について多面的・多角的に考察する。		○	

		日露戦争後の社会と政治	日露戦争を経て、政治の変化や国民国家が形成されたことを理解する。	○		
9	両大戦間期の日本	都市化・重工業化と生活の変化	両大戦間期の日本に関する主題を設定し、どのような事が明らかにできるかについて見通しを持つ。			○
		政党政治とdemocracy	大正デモクラシーに関する資料を用いて、大正時代の社会・政治の変化について表現する。		○	
		国際社会の中の日本	両大戦間期の国際関係の変容を理解する。	○		
10	第2次世界大戦と日本	昭和恐慌と立憲政治の動揺	第2次世界大戦と日本に関する主題を設定し、どのような事が明らかにできるかについて見通しを持つ。			○
		中国侵略と戦時体制への移行	州事変と日中戦争について多面的・多角的に考察し、結果を表現する		○	
		戦時体制の強化と第2次世界大戦の展開	第2次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治、社会、国民生活の変容を理解する。	○		
11	占領と改革	占領と日本国憲法の成立	占領下の日本について、問いを設定し仮説を立てる。			○
		冷戦の開始と経済復興	冷戦の開始が、戦後の日本経済や外交関係に与えた影響を理解する。	○		
	国際社会への復帰と高度経済成長	国際社会への復帰と対米協調	日本の主権回復と、その後の政治について多面的・多角的に考察する。		○	
		高度経済成長	講堂経済成長による日本社会の変化について追究し、表現する。			○
12	アジア情勢の変化と経済大国日本	1970年代の国際社会と日本	済大国となった日本がアジア情勢や国際社会に与えた影響を理解する	○		
		安定成長への転換	安定成長期の政治や社会の変化について多面的・多角的に考察する。		○	
	新しい国際秩序と日本の課題	激変する世界と日本	冷戦が終結し、国際関係が激変し、グローバル化が進む世界で、日本はどのような課題に直面しているのか問いを立て、追究する。			○
		21世紀の日本	「激変する世界と日本」で立てた問いが21世紀の日本において、どのような答えになっているのか追究する。			○
1	現代の日本の課題の探究	社会や集団と個人	「社会や集団と個人」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主題を設定し、考察・構想して表現する。			○
		世界の中の日本	「世界の中の日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主題を設定し、考察・構想して表現する。			○
		伝統や文化の継承と創造	「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主題を設定し、考察・構想して表現する。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
309 330	ちりたんきゅう 地理探究	6	3	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等

D選択「地理探究①」、G選択「地理探究②」を同時履修。

科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通してグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	地理の情報や規則性・傾向性を読みとり、地理的な特色を理解・解釈している。地理的事象の地理に関わる諸事象について、多面的に理解し、諸資料から情報を効率的にまとめる技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度が身についている。日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の方法

記述内容の点検、確認、分析
行動態度の観察、確認、分析
(定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート・プリント等提出物・振り返り、授業への取組状況 等)

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりと学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	地形	地形の成因	各種地形の成因について表現することができる。		○	
		大地形	大地形と人々の暮らしについて理解している。	○		
		河川・海岸の小地形	地形が影響する諸課題について主体的に解決しようとしている。			○
		その他の地形	特徴的な地形がどのような気候や環境がで形成されたのか考察し、表現している。		○	
5	気候	気候の成り立ち	気候の違いはどのように生まれるのか表現することができる。		○	
		気候と生態系	気候と植生・土壌の関係性について理解している。	○		
		気候区分	気候区分の基準や指標について理解している。	○		
		熱帯	熱帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		乾燥帯	乾燥帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		温帯	温帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		冷帯・寒帯	冷帯・寒帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		高山気候	高山気候の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
6	日本の自然環境	気候変動	地球規模で発生している気候変動について、その問題点を理解し、主体的に解決しようとしている。			○
		日本の地形	日本付近は複雑な地帯構造であることを理解している。	○		
		日本の気候	地形や気象条件によってどのような違いが生じるのか表現している。		○	
		災害と防災・減災	開発に伴って新たに見られるようになった課題を主体的に追及、解決しようとしている。			○
	地球環境問題	地球環境問題とは	地球環境問題にはどのようなものがあるのか理解している。	○		
		さまざまな地球環境問題	さまざまな地球環境問題についてそのメカニズムを考察し、表現することができる。		○	
		地球環境問題の解決に向けて	地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追及しようとしている。			○
	農林水産業	農業の発達と分布	農業が自然環境と密接に結びついていることを理解している。	○		
		農業の地域区分	各種農業を場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		農業の現状と課題	世界と日本の農業の課題についてよりよい社会の実現を視野に主体的に追及しようとする。			○
		世界と日本の林業	木材の伐採が盛んな地域とその利用方法を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		世界と日本の水産業	水産業についてその特徴や近年の動向について理解している。	○		

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
7	食料問題	世界と日本の食糧問題	食料問題についてよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○
	エネルギー 鉱産資源	エネルギー資源の種類と利用	エネルギーの種類とその移り変わりを理解している。	○		
		化石燃料の分布と利用	化石燃料の分布について既習の知識を生かし、多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		電力の利用	各国の発電方法の違いを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		鉱産資源の種類と利用	鉱産資源の種類と分布の偏りを理解している。	○		
	資源・エネルギー問題	資源・エネルギーをめぐる課題	資源・エネルギーをめぐる問題についてよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○
		日本の資源エネルギー問題	日本の資源・エネルギー問題について今後どのようにしていくべきか、主体的に追究しようとしている。			○
	工業	工業の発達と種類	工業の発達と種類について理解している。	○		
		工業の立地	工業の立地についてその理由を考察し、表現している。		○	
		世界の工業地域	世界の工業地域の特徴と工業形態の移り変わりを理解している。	○		
		現代世界の工業の現状と課題	工業の課題についてよりよい社会の実現を視野に主体的に追究している。			○
		工業の知識産業化	各国でどのような産業が生まれているか理解している。	○		
		日本の工業	日本の工業の内訳と移り変わりを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
9	第3次産業	経済発展と第3次産業	第3次産業の割合が高い国の共通点を理解している。	○		
		商業の現状と変化	各種商業施設の分布の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		さまざまな3次産業	第3次産業の広がりについて理解している。	○		
	交通通信	世界を結ぶ交通と情報通信	交通機関の特徴を理解し、交通機関や情報通信技術の発展がもたらしたものを主体的に追究しようとしている。			○
		日本の交通	日本の自然環境・社会環境と交通機関との関係性を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	観光	日本と世界の観光	世界の観光客の移動や観光の変化について理解している。	○		
	貿易と経済圏	世界の貿易と地域間格差	地域間格差の要因について多面的・多角的に考察している。		○	
		貿易の自由化と経済連携	FTAやEPAなどのメリットについて理解している。	○		
		日本の貿易	日本の貿易の特徴と課題について主体的に追究しようとしている。			○
	人口	世界の人口	人口が増加している地域、減少している地域の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		人口の移動	世界的に見た人口の移動とその要因を理解している。	○		
	人口問題	世界の人口問題	先進国と途上国で異なる人口問題について主体的に追究しようとしている。			○
		日本の人口問題	日本の少子高齢化などの人口問題についてその解決策を主体的に追究しようとしている。			○
	村落と都市	集落の成り立ち	集落の立地の共通点を多面的・多角的に考察し表現している。		○	
		村落の形態	さまざまな村落の形態について、その理由とともに理解している。	○		
		都市の成立と形態	都市の形態や機能について理解している。	○		
		都市圏の拡大	都市圏の拡大の推移とその構造について理解している。	○		
	都市問題	発展途上国の問題	発展途上国の都市・居住問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		先進国・日本の問題	先進国・日本の都市・居住問題について、問題解決に向けて主体的に追究しようとしている。			○
10	衣食住	世界の衣服と食生活	自然環境・社会環境と衣服・食生活との関係を理解している。	○		
		世界の住居と衣食住の画一化	住居の地域性と画一化がもたらしたものを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	民族・宗教	世界の民族・言語・宗教	世界の言語分布と宗教の関係を資料から読み取り、表現している。		○	
		民族問題と多文化共生	民族問題と多文化共生に向けた取り組みを理解している。	○		
	国家の領域	現代世界と国家	国家と領域について理解している。	○		
		領土問題	領土問題について理解し、問題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
	中国	政治体制と民族	多民族からなる中国の民族構成や分布の特徴を理解している。	○		
		農業と水産業	気候や地形と食生活の関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業化と海外進出	中国の工業化や海外進出における世界への影響を理解している。	○		
		経済発展と課題	経済発展による国内外の問題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
11	韓国	歴史と生活文化	歴史や生活文化を理解している。	○		
		産業の発展と生活の変化	急速な経済成長による様々な影響を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	東南アジア	歴史と文化・民族	文化や民族構成の特徴を理解している。	○		
		農業とその変化	ASEAN諸国の農業の変化とその要因を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業とその発展	ASEAN諸国の工業の発展を理解している。	○		
		ASEANの変化と課題	ASEAN諸国の課題について理解し、その課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
12	インド	急速な経済成長と産業	急速な経済成長を成し遂げた要因を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		増加する人口と農村	経済成長に伴う人々の生活の変化を理解している。	○		
		社会の変化と経済格差	独特の社会構造をもちながらの経済成長による、課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
	西アジア・中央アジア	イスラーム文化と生活	西アジア・中央アジアの人々の生活文化の共通点や相違点を理解している。	○		
		交易と農業	自然環境がもたらして交易や農業の方法について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		豊富な資源と開発	豊富な資源とその開発、日本との結びつきを理解している。	○		
	アフリカ	歴史的背景と文化	歴史的背景と現在への影響について理解している。	○		
		他地域の結びつきと生活の変化	他地域との結びつきの変化や人々の生活の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		一次産品への依存と課題	一次産品への依存による課題を主体的に追究しようとしている。			○
	ヨーロッパ	EUの成り立ちと結びつき	地域統合の目的を理解している。	○		
		農業と政策	農業を支援する政策とヨーロッパの農業の特徴を理解している。	○		
		変化する工業	工業と工業地域の移り変わりを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		EUの拡大による影響と課題	EUの拡大による課題を主体的に追究しようとしている。			○
1	ロシア	成り立ちと体制変化	ロシアの誕生と国家体制の変化について理解している。	○		
		体制変化と産業	国家体制の変化による産業の変化について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	アメリカ	移民国家としてのアメリカ	アメリカの発展について移民と関連付けて理解している。	○		
		世界への食糧生産	アメリカの農業の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		進展する科学技術と産業	アメリカの産業の発展とその要因を理解している。	○		
		多民族社会と移民	移民増加に伴う課題を主体的に追究しようとしている。			○
	ラテンアメリカ	ヨーロッパの影響	ラテンアメリカにおけるヨーロッパの影響を理解している。	○		
		大土地所有制と農業	農業の発展とラテンアメリカの歴史的背景を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業化と経済発展	モノカルチャー経済からの脱却と工業発展の推移について理解している。	○		
	オーストラリアとニュージーランド	移民と多文化社会	多文化社会の実現への推移とその方法を理解している。	○		
		自然を生かした産業	オーストラリアとニュージーランドの農業の類似点と相違点を資料から読み取り表現している。		○	
		アジア・太平洋圏との結びつき	世界との結びつきの変化とその理由を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
2	将来の国土の在り方	日本の強みと課題	日本の地理的な課題を主体的に追究しようとしている。			○
	持続可能な日本の国土像	課題の把握	日本の国土像について探究していくための課題を設定している。	○		
		課題の追究	日本の国土像のついでに課題を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		課題の解決	日本の国土像の課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
331	ファッション造形基礎	3	3	総合	選択

履修条件、選択上の留意事項等
デザイン系ファッション系大学・専門学校志望者

科目の目標
被服の構成、被服材料の選択、洋服や和服の製作に関する基礎的・基本的な知識と技術などを活用し、ファッションを造形するための資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	基礎的な製作技術を身に付け、作品を完成させることができる。 ファッション造形に必要な基礎的な知識を身に付けている。
② 思考・判断・表現	素材や構成を理解し、自己表現のための着装について考え、表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ファッション造形に関心を持ち、主体的に取り組む態度がある。
評価の方法	
授業に意欲的に取り組み、発言する取り組みを多面的に評価する。作品製作や授業プリント、小テストを用いて、知識・技術の習得を判断する。また、発表、授業プリントで、関心・意欲、思考・判断・表現について評価を行う。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	1. 被服の構成 ・人体と被服	1章 衣服の構成	人体の構造や機能、動作時の人体寸法の変化、性別や年齢による体型の変化について理解する。	○		
5	・立体構成と平面構成	1章 衣服の構成	立体構成と平面構成の特徴を理解する。日本の和服文化に興味を持ち、理解する。		○	
6	2. 被服の素材 ・被服素材の種類 ・衣服素材の性能と選択	2章 衣服の素材	繊維、糸、布の代表的な種類と特徴について実習を通して理解する。	○		
7	3. 洋服製作の基礎 ・採寸 ・型紙の基本	3章 洋服の製作	身体寸法と採寸方法を理解する。平面製図を用いて、胴部原型、袖原型などの基礎的な理論や技法を習得する。	○		
8						
9	・洋服の製作	3章 洋服の製作	デザインにふさわしい被服材料の特徴と性能を考え、色・がらにも配慮した材料の選択ができる。	○		
10	5. 和服の製作 ・和服の素材 ・用具と基本的な技法	4章 和服の製作	和服の構成、各部の名称を理解する。 題材に応じた材料の選択ができる。			○
12	・簡単な和服の製作	4章 和服の製作	和服の構成、各部の名称を理解する。 題材に応じた材料の選択ができる。	○		
1	・簡単な和服の製作	4章 和服の製作	縫製に関する基礎的な知識と技術を習得し、用具を適切に活用して効率的に縫製できる。	○		
2	・和服の種類と用途	4章 和服の製作	用途と社会生活上のマナーを考慮した着装を理解する		○	
3						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
332	ソフトウェア活用	3	3	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科2年生で「情報処理」を履修、習得していること

科目の目標 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	ソフトウェア活用の意義や役割を理解するとともに、ソフトウェアを開発知識や技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	適切な手段で情報を集計・分析・判断し、システムを開発する思考・判断・表現力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動の中で業務処理用ソフトウェアなどを活用し情報システム開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価の方法	
開発したシステムの確認、分析 ソフトウェアを活用した行動の観察、確認 (授業への取り組み状況、定期テスト、小テスト、開発プログラムやその他提出物等への取組状況 等)	

学習計画								
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点				
				①	②	③		
4	企業活動とソフトウェア	ビジネスにおけるソフトウェアの活用	ソフトウェアの活用と目的を理解している	○				
			各種ビジネスにおけるソフトウェアの活用が企業活動に大きな関わりがあることを思考できている。		○			
			センシング技術とソフトウェアの活用について理解し情報システム開発に関わろうとしている			○		
		ビジネスにおけるソフトウェアの進化	Society5.0で実現する社会をイメージできる AIを活用した社会の変化を理解できる	○	○			
5	情報通信ネットワークの導入と運用	情報通信ネットワークの活用	ネットワークの構成とハードウェアに関する知識を持っている	○				
			ネットワークの活用とソフトウェアに関する知識を持っている	○				
			ネットワークの構築手順を思考し、活用しようとする			○		
			ネットワークの設定手順を理解し、表現しようとする		○			
		情報資産の保護	リスクの管理を理解している	○				
			アクセス管理を理解し設定できる	○				
			ファイルサーバの管理を理解し設定できる		○			
			認証サーバの管理を理解し活用しようとする		○			
6			データの保護を理解している	○				
			セキュリティポリシーを理解しようとしている			○		
			表計算ソフトウェアの活用	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	統計の基礎を理解している	○		
					情報の集計、分析ができる			○
シミュレーションを活用できる		○						
7		表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ		在庫管理を理解している	○			
			回帰分析を用いた売上分析ができる		○			
			日程管理、線形計画法、待ち行列、ゲーム理論を理解し活用できる			○		
		手続きの自動化	手続きの記録と実行ができる	○				
			マクロの登録ができる		○			
			相対参照で記録できる			○		
8								

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点				
				①	②	③		
9	データベースソフトウェアの活用	ビジネスとデータベース	身近なデータベースの活用と重要性を理解している	○				
			データベースについて理解している	○				
			表計算ソフトウェアとの比較ができる			○		
			データベースソフトウェアの機能と役割を理解している		○			
		データベースの作成と操作	データベースを作成できる	○				
			テーブルの作成とデータの入力ができる		○			
			インポート・エクスポートを理解し実行できる			○		
			リレーションシップを張ることができる			○		
			クエリの作成・種類を理解している		○			
			データの検索機能を理解し活用できる			○		
			フォームの作成ができる	○				
			レポートの作成ができる	○				
手続きの自動化	ユーザーフォームを作成できる		○					
	クエリの実行・フォームの作成・レポートの表示ができる			○				
データベースの構造	基本表と仮想表の違いを理解している		○					
	データの正規化ができる			○				
10	データベースソフトウェアの活用	データベースの活用	SQLの操作		○			
			業務処理用ソフトウェアの活用	グループウェアの活用			○	
				販売管理ソフトウェアの活用			○	
				給与計算ソフトウェアの活用			○	
			情報システムの開発	システム開発の基礎	システム開発の概要を理解している	○		
					ソフトウェア開発モデルを理解している		○	
					開発プロセスフレームワークを理解している	○		
					ソフトウェア開発手法を理解して活用できる			○
					インタフェース設計ができる	○		
					テストと保守を理解し、管理できる			○
			アルゴリズムの基礎	アルゴリズムと流れ図を理解している				
				アルゴリズムの基本設計ができる				
様々なアルゴリズムに興味関心を持っている								
情報システムの開発演習	演習を通して情報システムの開発に興味関心を持っている		○					
	演習を通して情報システムの開発に積極的にかかわろうとしている			○				
11	データベースソフトウェアの活用	データベースの活用						
12	データベースソフトウェアの活用	データベースの活用						
1	データベースソフトウェアの活用	データベースの活用						
2	データベースソフトウェアの活用	データベースの活用						